

## 未利用資源の利活用が評価

東北再生可能エネルギー利活用大賞

NEWS



賞状を掲げる日當社長（右）と遠藤市長

2月15日、再生可能エネルギーを利活用した発電、熱利用または燃料製造に関し、顕著な成果があり、他の模範となる地域に根差した取り組みを展開している団体に贈られる、平成29年度「東北再生可能エネルギー利活用大賞」を久慈バイオマスエネルギー株式会社を受賞しました。

同社は地域の製材所で発生するバーク（樹皮）を燃料とする木質バイオマス熱供給事業を平成28年9月に開始。菌床しいたけを栽培する隣接の栽培ハウスに暖房用の温水と菌床殺菌用の蒸気を供給するほか、排気を利用して木質チップを乾燥させ、市内施設



木質バイオマスボイラと栽培ハウス

2月26日には受賞の報告に同社の日當和孝社長らが市役所を訪ね、日當社長は「プラントを稼働させてから1年。まだあまり実績がない中での受賞となり驚いています。官民一体となって、久慈地域の森林や未利用資源を活用するという理念が認められての受賞だと思います」と受賞の喜びを語りました。報告を受けた遠藤市長は「現在、国では再生可能エネルギーに力を入れていきます。久慈には資源があるので、いかに利活用するかの課題があります。エネルギーの地産地消に向けて、自治体新電力も開始しました。今後も官民一体になって取り組んでいきたいです」と抱負を話しました。

## 震災から7年 復興への道筋を確かめる

東日本大震災復興祈念式～3.11を忘れない～

NEWS



追悼の思いを込め献花

東日本大震災から7年を迎えた3月11日、アンバーホールで「東日本大震災復興祈念式」3・11を忘れない」が開催。市民約300人が参加し、これまで歩んできた復興への道筋を確かめました。

式典では遠藤譲一市長と中平浩志市議会議長があいさつ。続いて、長坂康正復興大臣政務官、達増拓也知事のメッセージが代読されました。もちろんあひだ援助団長のさかなクンは「今後も、さまざまに変化する海の中で力強く生きていく魚たちを通じて、海の豊かさや怖さを伝えていきたいです。私にとって久慈は心のふるさと。温かい気持ちでいつも出迎えてくれる皆さんに感謝の気持ちを込めてお話をしました。」と語りました。

また、新しく自主防災組織の認定を受けた、侍浜町の向町自主防災会に認定書が授与されました。その後、岩手大学地域防災研究センターの福留邦洋教授が「地域で取り組む災害への備えについて」と題して講演。福留教授は「防災と考えると難しいが、病気で例えると、治療を速やかにするより、日頃の予防が重要です。過去の災害でも自衛隊や消防士に救助された人より、一般の人に助けられた人が多いです」と自助・共助の大切さについて話しました。



久慈への思いを語るさかなクン

## 温かい支援全国から

INFO

台風被災者への義援金、市への寄付金（平成29年11月16日～平成30年3月15日）



久慈大正琴の会は演奏会の収益を寄付

### 義援金

■市外  
▼吉野力ネ▼谷藤金彦▼ライメン武蔵▼青木俊直▼堀部マサ

■市内  
▼平成29年度ふれあい福祉まつり実行委員会

### 寄付金

■市内  
▼NPO法人やまがた地域振興協議会▼久慈大正琴の会▼久慈港運(株)

■東日本大震災義援金（11月16日～3月15日）  
【企業・団体】  
▼(株)ニツク（福岡県）▼平成29年度ふれあい福祉まつり実行委員会  
【個人】  
▼ヒシヌマトオル▼ヤザキクニオ▼ゴトウカズヤ

※支援者の申し出に基づき掲載しております。名前等に誤りがある場合がありますが、ご了承ください。

## 貴重な文化財を後世へ

NEWS

海女漁の技術など3件を市文化財に指定



上/素潜り漁をする海女 中線刻阿弥陀三尊鏡像（鏡面）

3月20日、市教育委員会は「久慈の海女漁の技術」を市指定無形民俗文化財に「下戸鎖の馬継所印」と「線刻阿弥陀三尊鏡像」を市指定有形文化財に指定。また「いわて久慈『海女のふるさと会』（大沢俊光会長）を保持団体に認定しました。

千葉啓蔵文化課長は「指定によりその価値を広く認識いただくことができます。未来に後世に伝え、周知の機会を設けながら活用を図ります」と今後の展望を語りました。

■久慈の海女漁の技術：女性の素潜り漁は世界的にも特殊な技術。当地方の女性による素潜り漁は明治時代に久喜地区で始まり、その後小袖地区に伝えられた

■下戸鎖の馬継所印：藩政時代に宇部・野田と盛岡を結んだ沼宮内廻野田街道、通称「塩の道」の要所に設けられた馬継所で用いた印。隣接する木売内村で使用されたものと併せて県内には2点のみが現存する

■線刻阿弥陀三尊鏡像：青銅製の八稜鏡で、平成27年に旭町の屋場沢遺跡で発見。平安期に久慈地域に仏教文化があったことを証明する貴重な遺物

## コミュニティ助成



完成した桑畑コミュニティセンター



完成を祝い西村会長があいさつ

### 地区の拠点が完成

このほど（一財）自治総合センターが実施する宝くじの助成制度と市の補助金を活用し、桑畑町内会（西村秀雄会長）は、コミュニティセンターを建設。各種行事のほか、地域の拠点施設として利用されます。

この制度は、宝くじの普及広報活動費を活用し、地域団体が行う活動を支援するものです。宝くじは、地域のさまざまな活動に役立てられています。